

■R01. 10. 07 市長定例記者会見内容

日時 令和元年10月7日（月）午後1時30分～2時5分

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、企画部長、地域創生部長、地域創生部交流推進調整監、企画調整課長、都市デザイン課長、商工港湾課長、社会教育文化課長、市長公室長

酒田記者クラブ 8社（山形新聞、荘内日報、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK、TUY）

コミュニティ新聞社（記者クラブの承認による）

■市長発表内容

【1. 令和元年度 酒田市の各表彰制度の受賞者が決定しました】

- ・酒田市の各表彰制度における令和元年度の受賞者が決定。
- ・今回の表彰は、①功労表彰、②市民表彰、③農業賞、④庄内文化賞、⑤阿部次郎文化賞の5つの表彰。
- ・各表彰制度の概要、受賞者一覧、受賞者の功績内容は資料のとおり。

〔各表彰制度の概要〕

- ・功労表彰は、これまで市政の発展に尽くされ、功労が特に顕著である方を表彰するもの。
- ・市民表彰は、市民生活の向上や公共的活動に尽くされた方を表彰するもの。
- ・農業賞は、農業振興に貢献いただいた方を表彰するもの。
- ・庄内文化賞は、庄内地方に居住し、文化振興に功績のあった方を表彰するもの。
- ・阿部次郎文化賞は、酒田市が生んだ偉大な哲学者 阿部次郎氏の偉業を記念し、研究・哲学部門で著しい成果を上げた方を表彰するもの。

〔受賞者一覧・功績の内容〕

- ・功労表彰の受賞者は2名。
- ・佐藤修三氏については、「酒田ビジネス大使」として大手企業の情報を提供していたくなど、本市の企業誘致活動に尽力していただき、本市の産業振興に多大な貢献をいただいております。また、「財団法人やまがた育英会」の業務執行理事として、学生の地元回帰に力を注がれています。
- ・高橋義夫氏については、酒田歯科医師会の会長を務められ、本市の保健・衛生の発展に多大な貢献をいただいております。
- ・市民表彰の受賞者は5名。
- ・故武田昭三氏は、酒田市老人クラブ連合会会長を務められ、本市の社会福祉の向上に貢献されました。
- ・庄司富由子氏は、庄内漏水調査株式会社代表取締役を務められ、公道漏水等の復旧作

業など安心安全な水道を守り続け、地域の発展やまちづくりに貢献されております。

・上林英樹氏は、テレビ共同受信施設の整備などを通じ、市民生活の向上や地域の発展に貢献されております。

・澤口與四一氏は、飛島観光協議会の会長を務め、飛島の観光振興に貢献されております。

・兵藤満喜子氏は、酒田市八幡民生委員・児童委員協議会会長を務め、社会福祉の向上に貢献されております。

・農業賞はいずれも農業振興に貢献された、加藤清志氏と金野茂氏です。

・庄内文化賞は、琵琶を中心に古典芸能の普及・宣伝に携わり、庄内の文化芸術振興に貢献された、池田青水氏です。

・阿部次郎文化賞は、阿部次郎を教育社会学の視点から研究された、竹内洋氏です。

・詳しい功績内容については、資料3ページ以降を参照。

・顕彰式については11月1日（金）午前10時からベルナール酒田で執り行う。

【質疑応答】

なし

【2. 令和元年度 酒田市新田産業奨励賞の被表彰者が決定しました】

本年度の新田産業奨励賞について、今回は企業2社の表彰。

・1社は有限会社阿部彌太郎商店で、畳の新調や修繕だけでなく、平成25年より畳の縁を使用して、名刺入れやバッグインバッグなどの小物雑貨を製作し販売している。新たな販路を確立するなど、本市産業の振興に貢献している。

・1社は、有限会社安藤煙火店で、現在は県内唯一の花火製造業者である。県内外の花火大会への参加実績を年々増やしており、本市の知名度向上へ貢献しているとともに、本市の観光産業の振興へも寄与している。

・授賞式は11月15日（金）午前11時からガーデンパレスみずほで行う。合わせて記念講演会を同日の午後に公益ホールで、寺島実郎氏の講演を中心とした講演会を実施する予定。

【質疑応答】

なし

【3. 黒森歌舞伎ポーランド公演実行委員会によるポーランド共和国での黒森歌舞伎公演について】

・11月2日から9日まで、日本とポーランドとの国交樹立100周年を記念してポーランド共和国のワルシャワ市とクラクフ市で黒森歌舞伎公演が開催されます。

・この公演は、黒森歌舞伎を研究されたポーランド共和国、ポズナン市にある「アダム・ミツキエヴィチ大学」のアシスタントプロフェッサーであるイガ・ルトコフスカ氏の「日

本ポーランド国交樹立 100 周年にあたる年に、日本文化である地芝居をポーランドの皆さんに是非紹介したい」との熱い思いを受けて、黒森歌舞伎妻堂(さいどう)連中(れんちゅう)、黒森歌舞伎保存会、黒森コミュニティ振興会、酒田市、山形県から構成される実行委員会を組織し、公演に向けた事前調査やポーランド大使館などの関係団体への協力依頼、募金活動を行いまして実現したものです。

- ・団員は総勢 41 名で、黒森歌舞伎関係者が 36 名、市関係者が私を含めて 5 名です。
- ・公演は、ワルシャワ市とクラクフ市の 2 都市でそれぞれ 2 回、計 4 公演行います。
- ・公演以外にも勘亭流書家によるワルシャワ大学でのワークショップ、黒森歌舞伎押絵倶楽部によるワルシャワ市民とのワークショップ、ワルシャワ市アジア・太平洋博物館での歌舞伎体験ワークショップ、黒森小学校とワルシャワ市のベドナルスカ小学校との海を越えた傘福共同制作などを開催し、日本文化の紹介とともに、ポーランド共和国の方々との文化交流も行います。
- ・今回の公演を通じて、地域の宝である黒森歌舞伎を海外へ発信するだけでなく、ポーランドの異なる文化との出会いから新たな視点での伝統文化を生かした地域づくりに繋がっていくことを期待しています。

【質疑応答】

記者／今後、交流を市に生かしていけるところはあるか

市長／行ってみないとわからない。今回は実行委員会で行う事業。実行委員会には自分も入っている。ポーランドに行って 2 つの市との交流を行い、何か生まれるものがあれば、交流に生かしたい。現地で様々な関係者と会話して何かあれば。

記者／これまでポーランドと酒田の間で何かあるか

市長／何もない。ただし親日的な国。

【懇談・フリー質問】

◎東北公益文科大学の公立化について

記者／東北公益文科大学に関して、所信表明で公立化に向けて勉強会しているとのこと。今後のめどは？

市長／現在、めどはたっていない。勉強会を進めながら。酒田市だけの話ではない。県の意見も伺いながら。

記者／直近の勉強会は最近だった。今後どれくらいの頻度で行っていくか。

市長／これまでに 2 回やった。

企画部長／年内中にもう 1 回やる予定。そこでこれまでの課題を解決できるかは、やってみないとわからない

◎今年度のクルーズ船受け入れを振り返って

記者／今年度のクルーズ船の来航を終えての総括、市民の盛り上がりなど聞きたい

市長／MSCスプレディダ、ダイヤモンド・プリンセスなど、回を重ねるごとに、前回の反省を生かしながら、市民の皆さんが頑張っけて受け入れを行ってくれている。酒田市のおもてなしについては、船会社側としては喜んでくれているようだ。課題だったタクシーでの移動については、酒田だけでなく近隣市町のタクシー会社に臨時的に対応してもらって、あまり不便をかけずにやれた。ただし二次交通手段は今後も課題。ダイヤモンド・プリンセスの船会社の代表の方と話してみて、これまでは出羽三山を訪れる方が多かったが、今回は八幡・鳥海山も好評だったようだ。もっとアピールして、下船してもらおう方を増やしていきたい。中に入っているツアー会社へのPRや、移動手段の整備が鍵。

地域創生部交流推進調整監／高校生を含めたボランティアが好評。磨き上げたい。通しに関してはボランティアだけではなく、もっとクオリティが高い方を求める声がある。地域創生部長／二次交通の整備に関しては、船会社との調整が必要な面もあり、調整しながら進めていきたい。

記者／中心商店街の方々、アンケート結果や下船した客に関するデータが欲しいという声がある。

市長／商店の方にもデータを取ってほしいという思いがあるが、公益大の調査によれば1人9,000円くらいという数字が出ているようだ。商店の方は、実際にお客さんと接しているわけなので、持っているデータを明らかにしてもらい、全体として共有したい思いがある

記者／商店街の人はなかなか数字出せない部分がある。船によっては日本人客が多く、出店を控えたという声も聞いた。商工会議所にも協力してもらって数字をまとめては。市長／来年はノルウェージャンスピリット、再来年はラグジュアリークラスの船が来るクラスの高い船の乗客にお金を使ってもらえる品物、食事、体験・・・この整備が必要かと思う。

◎風力発電関係

記者／11日に県の風力発電の安全祈願祭あるが、市の予定は？

企画部長／市では安全祈願祭はやらない。

記者／着工の日付はいつか。

企画部長／今わからないので後でお知らせする。

◎公立病院の再編リストに関連して

記者／厚労省から公立病院の再編リストが出され、その中で旧八幡病院が取り上げられていたが。

市長／八幡病院は、すでに日本海病院に経営移管している。

記者／現時点での考えを、改めて国から示せと言われているのではないのか。

市長／リストに示されている日付の時点で、病院は経営移管済み。特段やることはない。国もそれはわかっている話。

◎かんぼの宿の営業終了に関して

記者／かんぼの宿、営業終了。どう考える？

市長／残念としか言いようがない。設置するときに、自分はその仕事に関わっていた。同僚の苦勞と、できた時の喜びも見ていた。完成した時の担当は自分だった。かんぼの魅力を高めるために出羽遊心館を整備した。温泉の掘削も市で行った。営業やめると聞いた時の落胆は大きかった。なんとかやめないでほしいという思いはある。

記者／貴重な施設を失うわけだが、観光面、ビジネス面への影響は？

市長／あると思う。市民もかんぼの温泉を使っている。旧酒田エリアで気軽に行ける温泉が減ってしまうという意味もある。

記者／市として活用を考えてはいないか。

市長／日本郵政のものでもあるし、市としてどう言えるものではない。廃止になった施設の経過を見ると、他の民間事業者に売却される例もあるようなので、何とかにぎわいを生み出す施設として存続してほしい思いはある。

記者／日本郵政が、売却する際に地元の自治体と協議を進めたいと言っていたが、どうか。何か話は進んでいるのか。

市長／現状何の話もない。市に買ってくれと言われても難しい話。

◎屋内型遊戯施設関連

記者／所信表明でも述べている屋内型遊戯施設について、新規設置だけでなく既設のものを活用するという考えもあるようだがどうか。内郷小を想定しているのか。

市長／違う。現状具体的な候補となる施設はない。先日、鶴岡のソライを見たが、あのようなものを作るのはなかなか難しいと思う。既存の施設を活用してできるかどうかも含めて、検討して進めていきたい。市民の皆さんの意見も聞きながら進めていきたい。少し時間をかけて酒田らしいものを作っていきたい。

以上